

が、それは冒頭にふれたウィドホーム教授である。現在は名誉教授となっているが、1980年当時大学教授として勤勉ながら休暇を利用して農場を経営しており、アメリカ合衆国の中西部にあって、規模は小さいということであったが、トウモロコシとダイズを生産されていた。トウモロコシとダイズの畑が延々と続くイリノイ州をドライブして到達した彼の家ではシカゴの穀物市場と直通回線が通じており、その日の相場を見てトウモロコシ、ダイズの売却を行っている現場を見ることができた。アメリカの農業生産の現場の一部を垣間見ることができたという思いがした。

かくして、トウモロコシの遺伝学と栽培の現場を一寸だけ覗くことができたが、核心を知ることができた思いがしてい

る。日本でも家畜の飼料として大量のトウモロコシを輸入していることは知っているが、その背景に深層としてメンデル遺伝学があり、それを駆使してトウモロコシの生産性が支えられているということを人にも告げたいと述べて筆を置く。

文献

- Ilitis, Hugh.H. 1983. From teosinto to maize. Science 222, 866-894.
Ilitis, Hugo 1924. Gregor Mendel, Springer
長田敏行 1993. 植物プロトプラストの細胞工学, 講談社サイエンティフィク.
長田敏行 2019. メンデルの軌跡を訪ねる旅から 3. 生物の科学—遺伝 72, 189-193.
長田敏行 2017. メンデルの軌跡を訪ねる旅, 裳華房.
Marcia *et al.* 2010. Designing plants to meet feedstock needs. In Biotechnol. Agricul. Forestry Vol.66, Springer-Verlag.

田畑の草種

紫片喰・紫酢漿草 (ムラサキカタバミ)

イソップ寓話に「お百姓と子どもたち」というこんなお話がある。

＝あるお百姓が、年を取って死ぬ日も近くなったので、死ぬ前に自分の子どもたちにお百姓の仕事をしっかり覚えさせたいと思った。そこで息子たちを呼んでこう言った。

「わしはもうじきこの世におさらばするがな、お前たちは、わしがブドウ畑に隠しておいた物を探してみるといい。きつと、いい物が見つかるから。」

息子たちははてっきり父親が宝物をどこかに埋めたのだと思って、父親が死ぬとブドウ畑をすみからすみまで深く掘り返した。しかし、掘っても掘っても、宝物はさっぱり見つからない。でも、せっせと耕されたブドウ畑からは、いつもの年の百倍ものブドウがとれたのだった。

このお話は、人間にとって働く事こそ宝物であると教えている。＝

というお話であるが、実はこのお話には続きがある。

お百姓が子どもたちに託したブドウ畑には、何か所かに紫色した花が咲いているところがあった。子どもたちはその花には見向きもせず、花があろうがなかろうが掘りまわった。その結果、その紫色の花は消え失せて、ブドウの収穫量は増えたのだが、数年もすると、その紫色の花の草が畑中に広がり、その後はその紫色の花の草の管理に手こずるようになったのである。

事をなすときにはあらかじめ知識を得ておきたいものである。その草はムラサキカタバミであった。

ムラサキカタバミはカタバミ科カタバミ属の多年草。全国の畑地、道端、空地、公園、芝地、庭などで生育する。背丈は5cm-30cm。とはいえ茎があるわけではなく、葉はすべて根生し、葉柄は5cm-15cm。花茎も根生し葉よりも高く抜き出て30cmほどになる。葉は誰もが知っているハート形の3小葉が基部の尖ったところで合わさった掌状複葉。小葉は幅

須藤 健一

2cm-4.5cm、裏面の葉縁付近にシュウ酸塩が堆積した橙色の細点がある。花期は6月-7月頃であるが、地域によっては春から秋まで咲いていることがある。また、南西諸島では夏期には休眠し12月-4月頃に開花する。花色は淡紫紅色で、花弁は5枚、幅は狭く、基部に濃色の条線がある。花茎の先に約1.5cmの花を数花つける。両性花であるが花粉を形成しないため種子は付けず、日本やヨーロッパではもっぱら鱗茎による栄養繁殖を行う。

見つけたムラサキカタバミを退治し整地しようとして葉や花を抜き取ると、その時は葉も花もなくなり地表面はきれいになったようにみえるが、ムラサキカタバミの葉も花もすべて根生しているので葉柄、花柄から先を抜き取っただけで、根の部分はすべて地中に残っていることになる。その根のところに数ある鱗茎が整地時などに周りに広がり、翌年には新たな葉柄や花柄を伸ばし先に葉や花をつけることになる。ムラサキカタバミを退治しようとするなら、見つけ次第スコップ片手に引っっこ抜くことである。

